# 令和７年度(第１期試験)

# 東北大学大学院教育学研究科博士課程

# (前期課程・一般選抜)
# 入学試験問題　外国語科目(英語)

注　意

1　試験時間は 90 分。
2　問題紙は 5 枚(表紙を除く)、解答紙は 4 枚。
3　設問Ⅰ、設問Ⅱの解答はそれぞれ別の用紙に記入すること。
4　辞書の持ち込み不可とする。

【設問 I】次の英文を読み、以下の問題に答えなさい。ただし人名及び固有名詞は原文のままでよい。

ここに下記文献の抜粋が入ります。

Nussbaum. M. (2011). *Creating Capabilities: The Human Development Approach* (pp.152-157), Cambridge: The Belknap Press of Harvard University Press.

（p.152 の小見出し Education の段落のはじめから、 p .156 の 2 段落名目終わり、persuasion is the correct approach.まで掲載）

また、次の部分に下線を付してあります。

下線部①　p .152 の小見出し Education の段落の 2 行目、Education (in schools, から、同段落の 5 行目 *internal capabilities* of many kinds. まで。

下線部②　p .152 の小見出し Education の段落の 12 行目、For ex- から p.153 上から 6 行目、making needed changes. まで。

下線部③　p .154 上から 13 行目、“Illiteracy is an enduring disability. から、同段落の the Equal Protection Clause.” まで。

下線部④　p .155 下から 10 行目、much more。

下線部⑤　p .156 下から 11 行目、Where children are concerned, から、同段落の for higher education. まで。

(Nussbaum. M. (2011). *Creating Capabilities: The Human Development Approach* (pp.152-157), Cambridge: The Belknap Press of Harvard University Press. より作成)

【設問Ⅱ】次の英文を読み、以下の問題に答えなさい。ただし、人名及び（）内に記載されている出典情報については、原文表記のままでよい。

ここに下記文献の抜粋が入ります。

Hattie, J. (2009). *Visible Learning: A Synthesis of Over 800 Meta-analyses Relating to Achievement*. (pp.2-3), London: Routledge.

（p. 2 の小見出し So much evidence の段落のはじめから、p. 3 の 28 行目、student achievement. まで掲載）

また、次の部分に下線を付してあります。

下線部① p.2 の小見出し So much evidence の段落の 13 行目、According to noted から、同段落終わりの *demand* for good programs. まで。

下線部② p.3 の 3 行目、this translation。

下線部③ p.3 の 14 行目、However から、18 行目、followed up in more detail. まで。

下線部④ p.3 の 26 行目、Most importantly, から、同段落の終わりの in influencing student achievement. まで。

(Hattie, J. (2009). *Visible Learning: A Synthesis of Over 800 Meta-analyses Relating to Achievement.* (pp.2-3), London: Routledge. より作成)

# 令和７年度（第１期試験）

# 東北大学大学院教育学研究科博士課程

# （前期課程・一般選抜）
# 生涯教育科学コース
# 入学試験問題（専門科目）

注　　意

1　試験時間は１２０分。
2　問題紙は　1　枚（表紙を除く）、解答紙は　2　枚。
3　志望する専門領域が人間形成論/人間形成史であるものは、設問Ⅰと設問Ⅱに解答すること。その際の解答は、２枚の解答紙を自由に使用して、記入してよい。
4　志望する専門領域が社会教育学/スポーツ文化論であるものは、設問Ⅲと設問Ⅳに解答すること。その際の解答は、２枚の解答紙に問題番号を明記して、それぞれ別の解答紙に記入すること。

設問 Ⅰ 子どもの教育において他者との対話が担う役割、その効果、さらには理想的な対話の実践方法について、自分の専門分野から説明しなさい。

設問 Ⅱ 次の２問からどちらか一つを選択し、その問いに答えなさい。

問１　次のキーワードの中から二つ選び、それぞれについて簡潔に説明しなさい。説明には、現代社会における具体的な事例や関連する時事問題を含めること。

①デジタルディバイド（Digital Divide）
②エコロジカル・アンソロポロジー（Ecological Anthropology）
③グローバルヘルス（Global Health）
④インターセクショナリティ（Intersectionality）

問２　日本教育史に関する次の項目①～④から二つ選び、それぞれについて説明しなさい。

①昌平坂学問所
②国定教科書制度
③天皇機関説事件
④地方教育行政の組織及び運営に関する法律

*****

設問 Ⅲ オリンピックやパラリンピックなどメガ・スポーツイベントが開催されるにあたって想定される利点と問題点について説明しなさい。その際、様々な立場によって異なる様相がみられることを具体的に記述すること。

設問 Ⅳ スポーツと地域社会に関わる現状と課題について、具体的種目をあげたうえで記述しなさい。

# 令和７年度（第１期試験）

# 東北大学大学院教育学研究科博士課程

# （前期課程・一般選抜）
# 教育政策科学コース
# 入学試験問題（専門科目）

注　　意

1　試験時間は１２０分。
2　問題紙は 4 枚（表紙を除く）、解答紙は 3 枚。
3　設問Ⅰ（共通問題）は全員解答すること。また、設問Ⅱ（選択問題）については、問題紙中に志望する専門領域ごとの問題選択の方法が記してあるので、それに応じて問題を選択の上、解答すること。
4　解答は、問題番号を明記の上、それぞれ別の用紙に記入すること。

設問Ⅰ：**共通問題（全員解答すること）**

以下の設問を読み、次頁の問いに応えなさい。なお、問1、問2で解答紙を1枚使用すること。

下の図は、社会的背景、国籍、民族的出自、ジェンダー、特別な教育ニーズなどにおける児童生徒の多様性に対して、教育システムが行ってきた（あるいは現在も行っている）処遇の仕方をモデルとして示したものである。それぞれの型に関する説明は以下の通りである。

ここに、下記の出典に記載された図が入ります。

**図　教育モデルの４つの型**

（出典）経済協力開発機構（OECD）（佐藤仁・伊藤亜希子監訳）『公正と包摂をめざす教育　OECD「多様性の持つ強み」プロジェクト報告書』明石書店、2024年、46頁。

**排除**：「児童生徒が直接的または間接的に、いかなる形の教育へのアクセスも妨げられたり、拒否されたりする場合に生じる」（同上書、46頁）

**分離**：「多様な児童生徒集団が別々の環境（学級もしくは学校）で教育を受ける場合に生じる」（同上書、46頁）

**統合**：「多様なニーズを有する児童生徒が既存の構造、態度、そして元のままの環境に合うことを条件に、何らかの適応や資源を伴う形で多様なニーズを有する児童生徒をメイン

ストリームの教育環境に入れることによって達成される」（同上書、46-47 頁）
**包摂**：「すべての学習者の存在、参加、学業達成を制限する障壁の克服を促進するプロセスである。それは、児童生徒をシステムに合わせようと変えるのではなく、児童生徒に合うようにシステムを変えることである」（同上書、47 頁）

問 1　上記のモデルのうち、**排除、分離、統合**に該当する事例をそれぞれ１つ挙げて説明せよ（合計で３つ）。なお説明する事例は、実際に生じた事例（歴史的事実など）だけでなく、仮説的な事例であっても構わない。

問 2　今日、教育システムにおいて様々な個人的要因や社会的状況の差異にどのように応答していくかが課題となっており、多くの場合は**分離**や**統合**の状態からいかにして**包摂**を進めていくかが問われている。現時点で**分離**や**統合**の状態にとどまっていると想定される事例を１つ挙げ、**包摂**を進めていくために求められる教育政策とそれを実施する際に生じる課題について説明せよ。なお、取りあげる事例は問 1 で挙げたものでも構わない。

設問Ⅱ：**選択問題（志望する専門領域の問題を選択して解答すること。）**

【教育行政学領域】
次の各問に答えなさい。なお、問1で解答紙を1枚、問2で解答紙を1枚使用すること。

問1　以下の図1は文部科学省が調べた「都道府県・指定都市の教育委員会事務局職員の出身別従事する業務の割合」を示したものである。
①議会対応（議会答弁対応を除く）と議会答弁作成について、それらの業務の具体的内容を記した上で、両者の数値の差がどうして生じるのか、想定される要因を記しなさい。
②①以外の業務から任意の業務を1つ選択し、その業務の具体的内容を記した上で、現状をもたらす要因、改善すべき課題、改善方策を記しなさい。

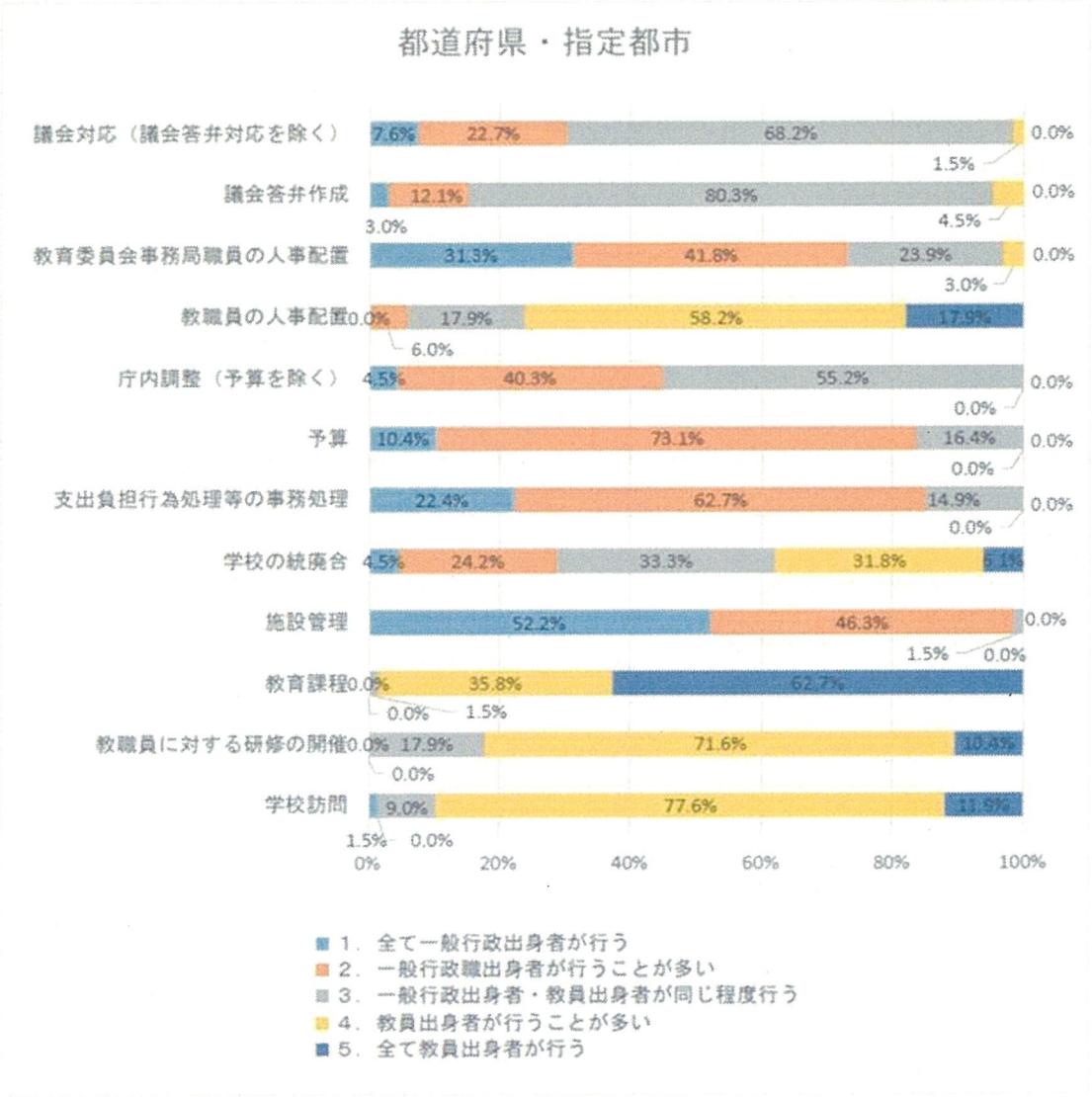



図1　都道府県・指定都市の教育委員会事務局職員の出身別従事する業務の割合
（出典）　文部科学省「教育委員会の現状に関する調査」（令和2年度間）

問2　教育行政学に関する次の語句のなかから3つを選択し、それぞれ200字程度で説明しなさい。

①　政務三役（文部科学大臣、文部科学副大臣、文部科学大臣政務官）
②　大学ファンド（10兆円ファンド）
③　統合型校務支援システム
④　教育長の直前歴
⑤　統合・分立軸

# 令和７年度（第１期試験）

# 東北大学大学院教育学研究科博士課程

# （前期課程・一般選抜）
# グローバル共生教育論コース
# 入学試験問題（専門科目）

注　　意

1　試験時間は１２０分。
2　問題紙は　1　枚（表紙を除く）、解答紙は　2　枚。
3　設問Ⅰ（共通問題）は全員解答すること。また、設問Ⅱ（選択問題）については、志望する専門領域の問題を選択し解答すること。
4　解答は、設問番号（設問Ⅱについては選択した専門領域）を明記の上、それぞれ別の用紙に記入すること。

設問Ⅰ：共通問題（全員解答すること）

ユネスコ憲章では、「戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。（中略）政府の政治的及び経済的取極のみに基く平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。」（文部科学省サイト（https://www.mext.go.jp/unesco/009/001.htm）による）という内容が述べられている。この文章を踏まえて、世界の平和のために、教育の役割を述べ、これらの役割を果たす方法について具体例を挙げて論じなさい。

設問Ⅱ：選択問題（志望する専門領域の問題を選択して解答すること）

【成人教育論領域】

問：成人学習支援に関して社会教育職員に求められる専門性の内容と、その形成もしくは発揮に関する課題を論じなさい。

【国際教育開発論領域】

問： 2030 年までに達成予定の持続可能な開発目標（SDGs）の最後の 6 年間に入り、SDG4 の進捗状況について悲観的な見解を示す研究が増えている。これらの研究は、SDG4 の達成に向けた軌道を修正するために、新たな教育開発のアジェンダを模索し、エビデンスを探す必要があると提唱している。SDG4 の課題および解決方法について具体例を挙げて論じなさい。

令和７年度（第１期試験）

# 東北大学大学院教育学研究科博士課程
# （前期課程・一般選抜）

# 教育情報アセスメントコース
# 入学試験問題（専門科目）

**注 意 事 項**

1. 試験時間は 120 分。
2. 問題紙は５枚（表紙を除く），解答紙は３枚，草案紙は１枚。草案紙は自由に使ってよい。
3. 設問Ｉと設問IIの両方に解答すること。
4. 設問ごとに別の解答紙を使い，設問番号を明示した上で解答すること。また，問題番号も明示すること。
5. 試験終了後，問題紙と草案紙は持ち帰ること。

**設問Ⅰ**　つぎの文章を読んで，問いに答えなさい。

## 社会性発達の文化相対論

内藤美加氏による「心の理論の発達と文化」（心理学ワールド，88号小特集，2020年）は，(1)そこから想像の連鎖が始まるという意味でとても面白かったので紹介したい。この小論は，欧米起源の「心の理論」研究が暗黙の前提としてきた人間観，すなわち個人を独立した情報処理（表象操作＋意思決定）システムとみなし，他者におけるその動作をメタ表象的に捉えているという考えに，文化相対的な観点から再考を促す。欧米的な見方による「心」はそれほど普遍的なものではなく，(2)それぞれの歴史的・文化的な環境のもとで構成された表現型のひとつに過ぎないという。

たしかに，日本の子どもでは誤信念課題の通過時期が欧米に比べて遅くなることなど，言語や養育スタイルの違いが認知発達にもたらす影響は検討されてきた。しかし，多くの研究では欧米的な人間観を鵜呑みにし，それに基づく十全なメタ表象能力の獲得に向けて，日本の子どもの発達がなぜ遅れてしまうのかという議論に留まっていたように思う。

そのような研究スタンスに対して，内藤小論は再考を促す。個人の行動はその「心」の状態に帰属されるという暗黙の前提をいちど括弧に入れ，他者理解や社会性の発達を文化相対的に捉えなおしてみようと。とくに日本人の人間観，すなわち個人は社会的・自然的な状況との関係性の中で行動しているという「関係性の理論」をベースに，これまで欧米的な「心」を前提としてきた認知能力やコミュニケーション能力に関する議論をほどきなおしてみようと。

## 状況に埋め込まれた日本人

日本人（日本の言語文化の中で育った人）は，どのような人間観，とくに人の行動の背後にある心の働きに対する想定をもっているのか。ここで想像を膨らませてみたい。

欧米では個人主義，すなわち独立した個人が意思決定しその責任を負うという考えが，文化や社会制度の根底にある。日本人もそのような個人主義に根ざした法律や規範に則って公的な社会活動を営む一方，個人の「心」は物理的・社会的な状況へのシームレスな拡がりをもち，日常的な認識や行動はその影響を大きく受けているのではないか。状況に埋め込まれた日本人は，(3)他者によってアフォードされあう中，互恵的な関係性の中へ無自覚的に埋め込まれているのではないか。

日本人の「心」が明確な境界をもたず環境や状況に浸潤していくのはなぜか。欧米と対照すれば，一神教に対するアニミズムが思い当たる。自然を征服しようとするのではなく，自然から飢えも実りも与えられ，その中に（霊性を感じつつ）包摂されて生きていく。日本人の多くは（自称）無宗教と言われるが，言語や風俗には諸宗教が織り込まれており，その基層にはアニミズム的な世界観が沈澱しているのではないか。山川草木に同質性を感じ，自分をとりまく集団にも無自覚的な同質化，すなわち「心」の境界の拡張をしているのではないか。

**認知発達の「ほどきなおし」へ**

子どもの認知発達は，何らかの普遍的な情報処理メカニズムによって駆動されるのだろうが，個別の歴史的・文化的な状況の中で展開され，そこで暗黙的に共有されている世界観・人間観を内化していくプロセスと言える。「心の理論」として検討されてきた他者理解の能力は，こうして獲得された人間観の顕れであろう。ゆえに，その普遍性と個別性を切り分け，養育環境・発達プロセス・獲得された能力などを文化相対的に捉えなおすことが求められている。

（小嶋秀樹『「心理学ワールド」の楽しみ方：第Ⅰ部「心理学ワールド」を読む － 認知発達ロボティクスの領域から』，心理学ワールド, No.101, p.23, 2023. 一部改変）

**問 1**　下線部(1)に「そこから想像の連鎖が始まる」とあるが，この文章の著者は，具体的にどのような「想像の連鎖」を経験したのだろうか。200 字程度で説明しなさい。

**問 2**　下線部(2)に「それぞれの歴史的・文化的な環境のもとで構成された表現型のひとつに過ぎない」とあるが，どのような意味か。200 字程度で説明しなさい。

**問 3**　下線部(3)に「他者によってアフォードされあう中，互恵的な関係性の中へ無自覚的に埋め込まれている」とあるが，どのような意味か。あなたの考える事例（実際または仮想のエピソード）をあげて，200 字程度で説明しなさい。

**設問Ⅱ**　以下の資料1，2は「令和5年度全国学力・学習状況調査 中学校英語」の結果について分析したものである。つぎの問1，2，3に答えなさい。解答は，問1，2，3をあわせて解答紙1枚程度の分量とし，1枚を超えてはならない。

**問1**　資料1は，調査における問題の正答率，標準偏差，および歪度，尖度を，「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」別に示したものである。中学校英語における調査結果について，資料1から読み取れることを，区分別の観点，および区分間の対比的な観点で整理しつつ，説明しなさい。

**問2**　資料2は，出題された問題の一部について，IRT（項目反応理論）分析を行い，項目特性曲線・項目カテゴリー曲線を描いたものである。資料2を読み取り，各問題のテストとしての有効性について特筆すべき点をまとめ，説明しなさい。なお，説明の際には，資料2の中に示されている「問題番号」（例：「問1（1）」など）や「学習指導要領の領域」の名称（例：「聞くこと」など）を適宜参照しながら記述しなさい。

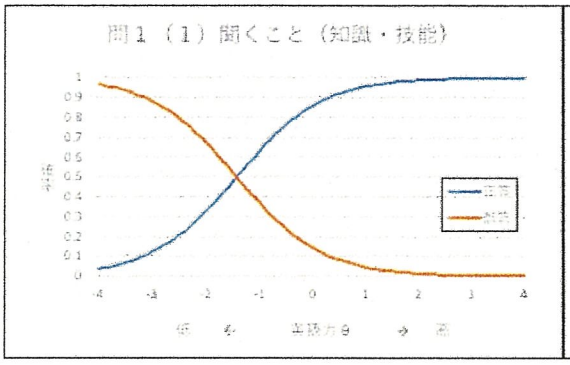
**問3**　資料1で読み取ったことをふまえ，中等教育における英語教育に関して，ICTや生成系AI等の技術革新によって実現することのできる教育支援の可能性について，自身の考えを論理立ててまとめ，述べなさい。

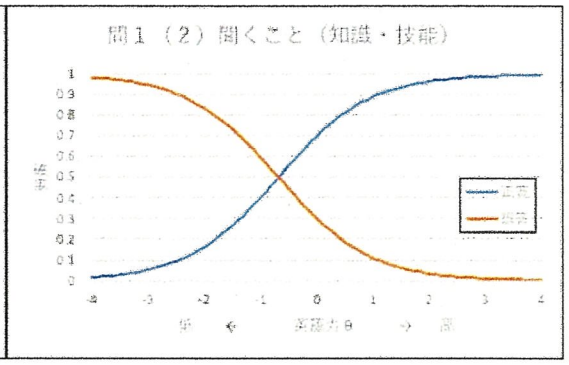
**資料1：学習指導要領の領域・評価の観点・問題形式別の正答率**

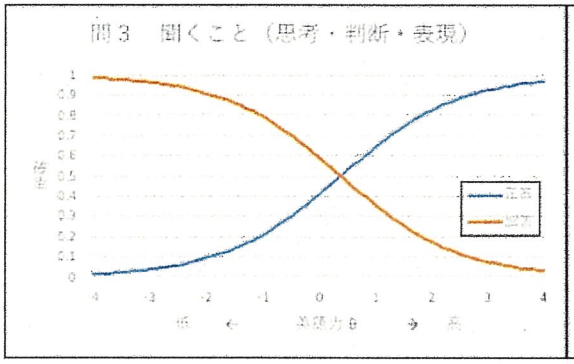
| 分類 | 区分 | 対象問題数（問） | 平均正答数(標準偏差) | 平均正答率（%）(標準偏差) | 歪度 | 尖度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 学習指導要領の領域 | 聞くこと | 6 | 3.6(1.7) | 59.4(27.8) | -0.22 | -0.88 |
| | 読むこと | 6 | 3.1(1.8) | 52.4(29.3) | 0.00 | -1.02 |
| | 話すこと［やり取り］ | 4 | 0.6(0.9) | 15.0(23.2) | 1.59 | 1.96 |
| | 話すこと［発表］ | 1 | 0.1(0.2) | 4.7(21.1) | 4.31 | 16.56 |
| | 書くこと | 5 | 1.3(1.5) | 25.2(30.4) | 0.94 | -0.35 |
| 評価の観点 | 知識・技能 | 12 | 5.2(3.0) | 43.3(24.9) | 0.30 | -0.86 |
| | 思考・判断・表現 | 10 | 3.4(2.2) | 34.2(22.3) | 0.61 | -0.28 |
| 問題形式 | 選択式 | 12 | 6.7(3.0) | 55.9(25.2) | -0.01 | -0.98 |
| | 短答式/口述式 | 6 | 1.4(1.6) | 23.2(26.8) | 1.00 | 0.01 |
| | 記述式/口述式 | 4 | 0.5(0.9) | 12.9(21.4) | 1.75 | 2.60 |

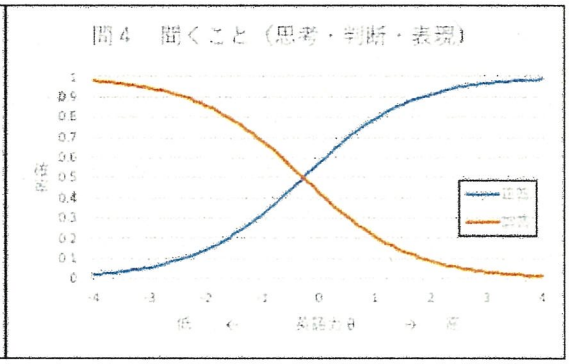
**資料２：出題された問題の一部における項目特性曲線・項目カテゴリー曲線**

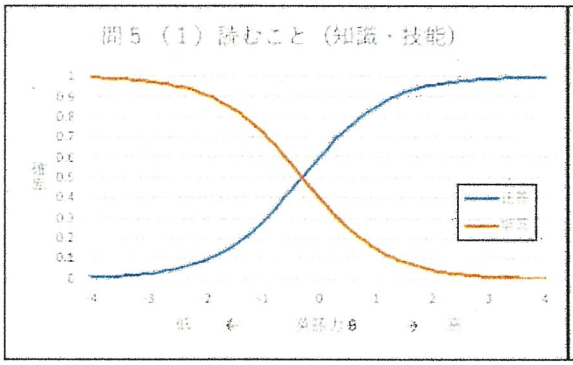
横軸は受験者の英語力，縦軸はその問題に対する正答/誤答/準正答の確率を表す。

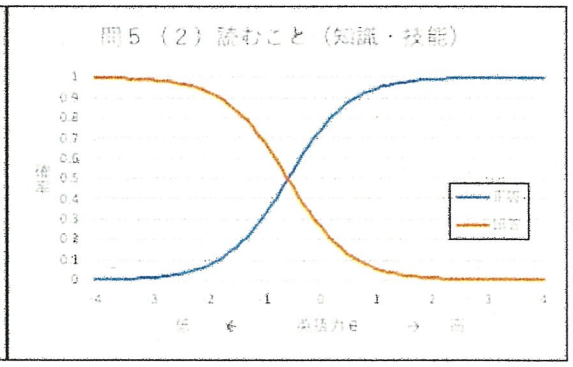


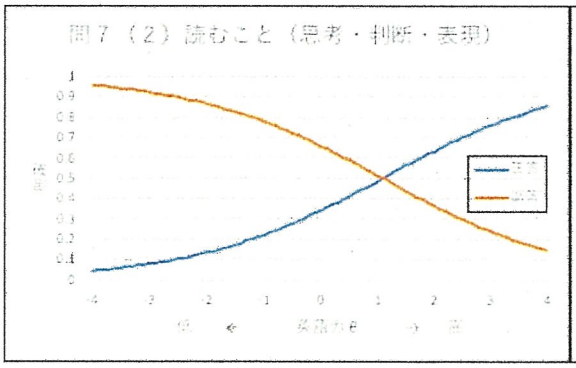



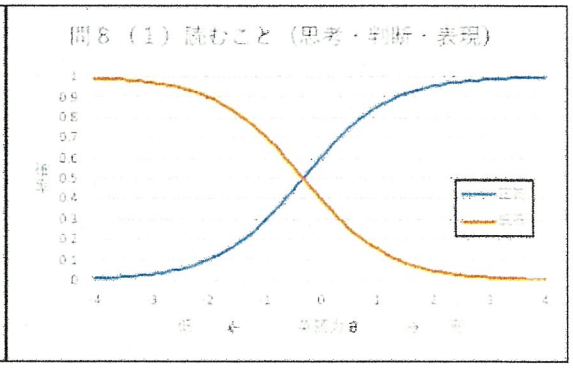



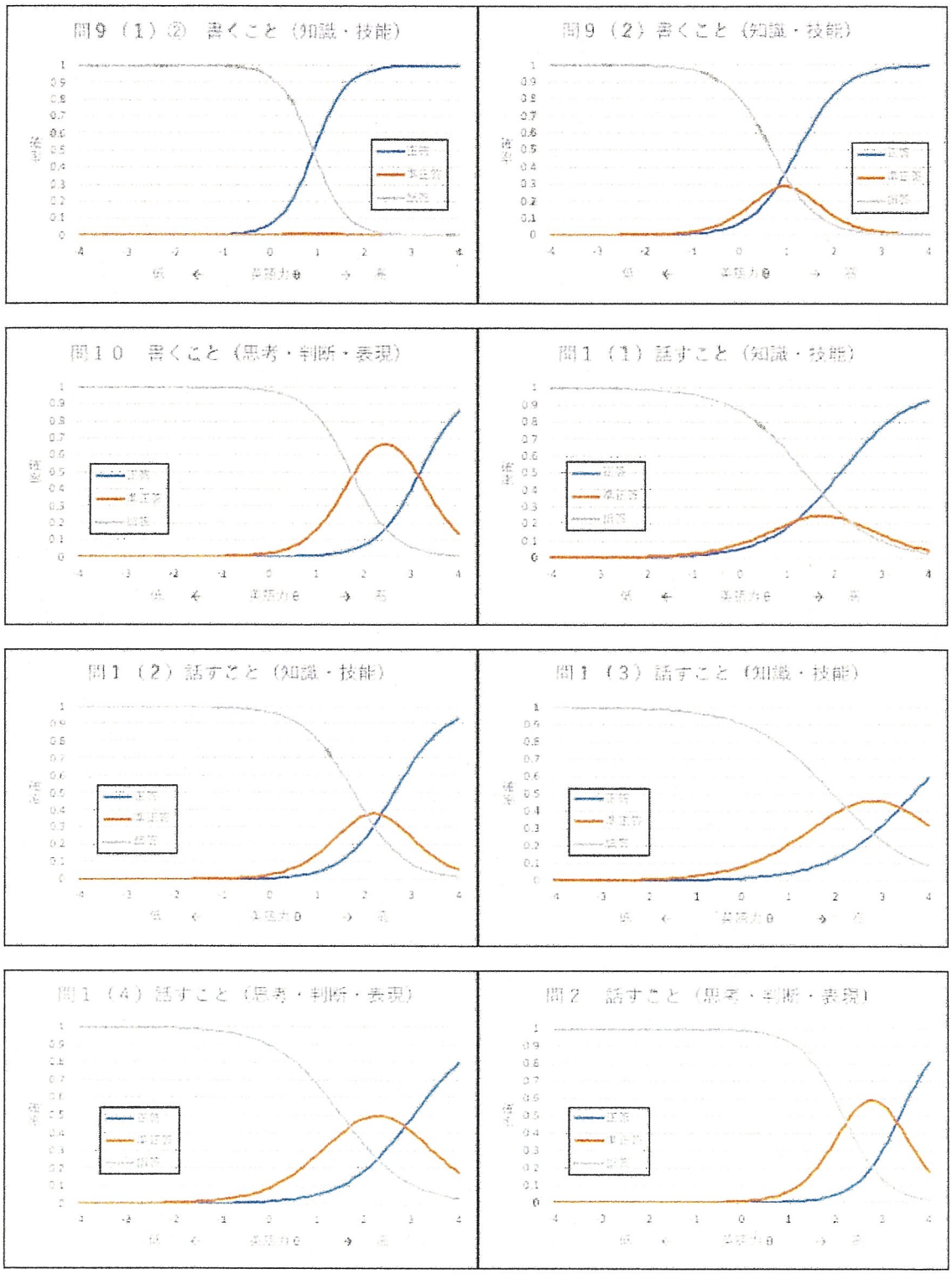






（資料１，２，ともに，横浜国立大学『令和５年度全国学力・学習状況調査の英語の結果を活用した専門的な分析』，pp.12, 28-30, 2024．抜粋・一部改変）

# 令和７年度（第１期試験）

# 東北大学大学院教育学研究科博士課程

# （前期課程・一般選抜）
# 教育心理学コース
# 入学試験問題（専門科目）

注　　意

1　試験時間は１２０分。
2　問題紙は１枚（表紙を除く），解答紙は４枚。
3　【共通】【B-1】【B-2】・・・の解答は，問題番号を明記の上，それぞれ別の解答紙に記入すること。
4　志願する領域によって解答する問題が異なるので，注意すること。

**発達心理学**領域を専攻しようとするものは【共通】【B-1】【B-2】【B-3】の各問題に解答すること。

＜発達心理学領域＞

【共　通】　「非認知能力」について，以下の問いに答えなさい。

①「非認知能力」とはいかなる能力のことか。「認知能力」と対比して説明しなさい。

②「非認知能力」に着目して研究することの意義は何か。学習心理学，発達心理学，発達障害学のいずれかに視点を定めた上で論じなさい。

【B－１】　ピアジェ（J. Piaget）の道徳性の発達段階について説明しなさい。その際，次の用語を使用すること。「他律的道徳性」，「自律的道徳性」。

【B－２】　エインズワース（M.D.S. Ainsworth）のストレンジ・シチュエーション法（Strange-Situation Procedure）について説明しなさい。その際，次の用語を使用すること。「アタッチメント」，「分離」，「安定型」。

【B－３】　「青年期の発達には，時代・コホート要因が大きな影響を与える」とはどのようなことを意味しているかについて，青年期の発達の特徴について言及しながら，具体的な例を挙げて説明しなさい。

令和７年度　（第１期試験）

# 東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜および社会人特別選抜および外国人留学生特別選抜）

## 臨床心理学コース
## 入学試験問題（専門科目）

注　意

１．試験時間は１２０分。
２．問題紙は１枚（表紙を除く）、解答紙は５枚。
３．解答は所定の用紙に記すこと（設問Ⅰ～設問Ⅲの解答は各１枚の解答紙を用いて、設問Ⅳの解答は２枚の解答紙を用いて、(1)～(4)を１枚目、(5)～(8)を２枚目に記入すること）。

・・・・・・・・臨床心理学コース・・・・・・・・

【設問Ⅰ】　自殺をほのめかすクライアントのリスク・アセスメント、望ましい支援について述べなさい。　（20 点）

【設問Ⅱ】　コミュニティ心理学における「予防」について説明しなさい。　（20 点）

【設問Ⅲ】　心理療法プログラムによるメンタルヘルスの改善効果を定量的に検証するためには、どのようなデータ収集およびデータ分析方法が考えられるか。具体例をあげながら説明しなさい。解答の中には、「従属変数」「独立変数」という用語を含めること。　（20 点）

【設問Ⅳ】　以下の用語をそれぞれ５行程度で説明しなさい。　（各 5 点）

（1）　医療観察法（心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律）

（2）　双極性障害

（3）　自己中心性

（4）　ヒューリスティック

（5）　カップル・セラピー

（6）　暴露反応妨害法

（7）　経験サンプリング法

（8）　交絡（confounding）

（以下余白）